

小児科診療 UP-to-DATE

2016年6月1日放送

病院調査から見た小児医療の動向

広島国際大学 医療経営学部 医療経営学科
教授 江原 朗

厚生労働省の医療施設調査によりますと、病院小児科の数は平成 20 年の 2,905 施設から平成 26 年の 2,656 施設へと 249 施設減少しています。また、平成 24 年から 26 年の最近の 2 年間だけでも 2,702 施設から 2,656 施設へと 46 施設が減少しています。病院小児科が減少している今日、小児医療はどのように提供されているのでしょうか。もし、病院小児科が減少することで、医療の提供が、特に休日夜間の小児医療が十分に提供されなければ問題です。そこで、日本小児科学会が公表した平成 24 年および 26 年度病院調査報告書を読み解くことにしました。

平成 24 年から 26 年の 2 年間で病院小児科はどう変化したのでしょうか。日本小児科学会の調査では、病院小児科の数は平成 24 年の 2,740 施設から平成 26 年の 2,206 施設へと 534 施設減少しています。厚生労働省の医療施設調査の結果よりも、平成 26 年の病院小児科の数は少なく、小児科を廃止したと国に届け出てはいないものの、現実的には小児科診療を行っていない病院は多いものと思われます。

では、病院小児科に勤務する常勤医の数はどう変化してきたのでしょうか。1 人から 4 人、

ないし、9 人から 50 人の常勤医をかかえる病院小児科が減少し、常勤医がいない病院小児科、5 人から 8 人、また、51 人以上の病院小児科が増加しています。小規模な病院小児科は非常勤医師

表1 病院小児科の年次推移
(平成26年医療施設調査、厚労省)

年	病院小児科	比
平成20年	2,905	1
21年	2,853	0.98
22年	2,808	0.97
23年	2,745	0.94
24年	2,702	0.93
25年	2,680	0.92
26年	2,656	0.91

だけで、主に外来診療を行う施設が増えていると思われま。また、常勤医が 5 人から 8 人いる地域の基幹となる病院小児科や 51 人以上のこども病院や大学病院小児科が増加しているといえます。わずか 2 年の間ですが、小児科医の分布に 2 極分化が生じていることがわかります。

では、小児科外来の診療体制はどうでしょうか。公休日以外は毎日診療を行っている病院小児科の割合は、平成 24 年の 82.9%から 26 年の 92.0%へと 9.1%増加しています。一方、特定の曜日に限って診療を行う病院小児科は、平成 24 年の 15.5%から 26 年の 3.6%へと減少しています。小児は急性疾患が多く、数日の間隔で経過を観察する症例が多いと思います。公休日以外毎日診療を行う病院小児科の割合が増し、特定の曜日に限って診療を行う病院小児科の割合が減ったことは、小児の健康管理において喜ばしいことだと思います。

小児科を標榜する病院が救急指定医療機関である割合はどうでしょうか。救急指定医療機関の割合は、平成 24 年には 70.8%、26 年には 78.6%でした。解析対象の病院数が違うので直接の比較はできませんが、救急指定を受けた病院の割合が増えていることから、小児科を廃止した病院は救急指定を受けていなかった可能性が高いと思われま。つまり、病院小児科が減少しても、地域の小児救急医療の提供に影響を与えた可能性は低いものと考えられます。

子どもが急に発熱や喘息等の発作を来し、休日や夜間に救急外来を受診する機会が多いと思います。では、救急外来を時間外に受診した場合に、何科の医師が初期診療を行うかは保護者にとって関心のあることだと思います。小児科医が 6 歳未満の患者の時間外診療に初期から対応する病院の割合は、平成 24 年の 38.6%から 26 年の 43.8%へと 5.2%増加しています。一方、他の診療科の当直医師が 6 歳未満の時間外受診に対して初期対応をする病院の割合は平成 24 年 46.1%、26 年 47.1%とほとんど変化していません。つまり、地域の基幹病院では、小児科医師の

表2 小児科を標榜する病院における常勤小児科医

常勤医師数	平成24年		平成26年		割合の差
	病院数	割合	病院数	割合	
0人	222	11.1%	429	19.5%	8.4%
1人	613	30.6%	598	27.2%	-3.4%
2人	284	14.2%	298	13.6%	-0.6%
3人~4人	345	17.2%	317	14.4%	-2.8%
5人~8人	252	12.6%	282	12.8%	0.3%
9人~19人	184	9.2%	175	8.0%	-1.2%
20人~50人	94	4.7%	86	3.9%	-0.8%
51人以上	9	0.4%	12	0.5%	0.1%
合計	2,003	100.0%	2197	100.0%	0.0%

・回答のない病院はインターネット等で確認
 ・医師数不明は、平成24年327施設、平成26年9施設

表3 小児科外来の診療体制

	平成24年		平成26年		割合の差
	病院数	割合	病院数	割合	
公休日以外は毎日診療	1,595	82.9%	1,852	92.0%	9.0%
曜日を決めて診療	299	15.5%	73	3.6%	-11.9%
外来診療はしていない	29	1.5%	89	4.4%	2.9%
小計	1,923	100.0%	2,014	100.0%	0.0%
無回答	69		192		

表4 救急病院の指定の有無

指定	平成24年		平成26年		差	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
あり	1,343	70.8%	1,420	78.6%	77	7.8%
なし	553	29.2%	386	21.4%	-167	-7.8%
小計	1,896	100.0%	1,806	100.0%	-90	0.0%
無回答	96		400			
合計	1,992		2,206			

増加等により、乳幼児の診療に初期から対応できるようになったと思われます。

では、病院小児科に勤務する医師が休日夜間の当直にどのように関与しているのでしょうか。小児科は、女性医師の占める割合が高く、また、全受診に占める休日夜間の受診割合が、内科やその他の成人の診療科を大きく上回ります。このため、子どもたちの休日夜間の診療の質を損なうことなく、小児科医が燃え尽きることも防ぐという二律背反の問題を解決する必要があります。小児科医の当直体制を見ますと、大きな変化はありませんが、小児科のみで365日24時間体制を敷く病院の割合は若干増えています。常勤医が増えた大規模な病院小児科では、小児科医だけで小児の時間外受診に対応する体制が確立してきていると思われます。

これまで、小規模な病院小児科が全国に林立し、少ない小児科医がオンコールで24時間対応をしていました。このため、小児科医がバーンアウトし、地域医療が危機に瀕したこともありました。しかし、平成24年と26年の病院小児科の調査から見えてきたものは、小規模な施設は非常勤医師による外来診療が主体となってきたこと、また、地域の基幹となる病院小児科では常勤医の数は若干ながらも増加したことです。常勤医が5人から8人いる地域の基幹病院の小児科は、平成26年現在全国に282施設存在しています。医療は、通勤通学や買い物で日常的に移動する地域をもとに、二次医療圏という圏域が設定されています。全国に350弱の二次医療圏がありますので、一部の二次医療圏を除き、常勤医が5から8人のいる基幹病院の小児科がほぼ二次医療圏に1か所ある計算になります。

こうした病院小児科を、日本小児科学会では地域小児科センターと称し、二次医療圏に1か所整備して24時間365日質の高い小児医療を提供しようとしてきました。こうした活動が実を結びつつあるといっても過言ではないでしょう。

特に、6歳未満の時間外受診患者の初期対応から小児科医が対応していること、また、小児科医が24時間365日当直をしている病院の割合が増えていることは、保護者にとっても安心なことだと思います。

質の高い小児医療を絶え間なく提供するには、医療資源の有効活用が不可欠です。たしかに、過疎地と都会、地方間の格差は厳然として存在します。しかし、こうした矛盾は、少しずつでは

表5 6歳未満の時間外患者に対して最初に担当する医師

	平成24年		平成26年		差	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
小児科の日直ないし当直医	673	38.6%	637	43.8%	-36	5.1%
病院全体の日直ないし当直医	803	46.1%	686	47.1%	-117	1.1%
on callされた小児科医	149	8.6%	129	8.9%	-20	0.3%
その他	117	6.7%	3	0.2%	-114	-6.5%
小計	1,742	100.0%	1,455	100.0%	-287	0.0%
無回答	250		751			
合計	1,992		2,206			

表6 小児科医の当直体制

	平成24年		平成26年		差	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
小児科のみで365日24時間	372	19.6%	380	20.6%	8	1.1%
病院当直として参加	435	22.9%	435	23.6%	0	0.7%
輪番など特定の日のみ	306	16.1%	284	15.4%	-22	-0.7%
その他	138	7.3%	118	6.4%	-20	-0.9%
当直はしていない	650	34.2%	625	33.9%	-25	-0.3%
小計	1,901	100.0%	1,842	100.0%	-59	0.0%
無回答	91		364			
合計	1,992		2,206			

あっても、原因が何であるかを認識することによって解決策を見いだせるのではないのでしょうか。そのためには、小児医療提供に関する客観的なデータが不可欠です。今後も、小児医療の実態を把握するため、皆様のご指導をいただきたいと思います。

「小児科診療 UP-to-DATE」

<http://medical.radionikkei.jp/uptodate/>